

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成21年6月1日

財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 農学研究科

職 名・学 年 博士後期過程3年

氏 名 酒 井 祥 太

事業区分	平成21年度・国際研究集会派遣助成	
研究集会名	アメリカ油化学会	
発表題目	Inhibitory effects of carotenoids on degranulation of mast cells via antigen-induced aggregation of FcεRI	
開催場所	アメリカ合衆国、フロリダ州、オーランド	
渡航期間	平成21年5月1日 ~ 平成21年5月8日	
成果の概要	タイトルは「成果の概要/報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 無 有(招へい状、プログラム)	
会計報告	交付を受けた助成金額	200,000 円
	使用した助成金額	200,000 円
	返納すべき助成金額	0 円
	助成金の使途内訳 (使用旅費の内容)	航空賃: 192,240円 学会参加費: 13,500 円 ----- ----- ----- ----- -----

成果の概要

100th the American Oil Chemists' Society (AOCS) Annual Meeting

京都大学大学院 農学研究科 応用生物科学専攻

博士後期過程第3学年 酒井 祥太

京都大学教育研究振興財団による助成を受け、2009年5月3日から6日にアメリカ合衆国フロリダ州オーランドにおいて開催された第100回アメリカ油化学会において発表参加した。本学会は、脂質や界面活性剤の研究を専門とした世界中の企業や個人が参加する学会であり、シンポジウム等では、教育を目的としたものや技術サポートまで参加者に有用なものが多い。特に申請者の研究発表領域である食品脂質成分の生理活性や有効利用に関する国際的に有名な専門研究者が多数参加するため、申請者の研究の位置づけや新規性を見出すことができると考えられるという理由から発表参加した。今回は、豚インフルエンザの影響で数題の演題取り消しがあったが、数百名の参加者が集まり、非常に活気のある集会となった。

報告者は、研究成果の一部である「抗原刺激が誘導する高親和性IgE受容体 (FcεRI) の凝集を介したカロテノイドによる肥満細胞の脱顆粒抑制作用」という題目で「General Health and Nutrition」のセッションにおいて20分間の口頭発表を行った。本研究は、食品機能成分として注目されている脂溶性の色素のカロテノイドがI型アレルギーにおける主要な炎症反応である肥満細胞が脱顆粒反応を抑制することを見出し、さらにその作用機構としてこれまでに知られている経路とは全くことな機構を明らかにしたものである。初めての国際会議で、口頭発表ということもあり、発表後の質疑応答においての討論に時間を要したが、報告者の研究内容を本分野の多くの方々に理解し関心を持っていただけたと感じた。

また、学会二日目にはポスター展示および討論が行われ、非常に多くの方々と討論を交えることができた。英語でのコミュニケーションが初めてでなかなか理解できない部分も多々あったが、発表者が一つ一つ丁寧に説明してくださったので、研究についてのみではなく、国際交流の経験も得られた大変有意義な時間であった。特に、報告者の発表したセッションのポスター発表では、同じ分野における最先端の研究内容もあり、今後の研究の展開を考えるのに非常に勉強になった。

京都大学教育研究振興財団の助成を受け、国際研究集会に参加し、国際的な最先端の研究成果や研究者と直接触れ合うことができ、報告者の今後の飛躍のためにも貴重な経験になりました。ここに深く感謝を申し上げます。